

令和8年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子



6月号



<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

四季の森

学校生活の中で発見した、子ども達の“身につけた力”！

副校長 田中 力

初夏の候、保護者の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。新年度がスタートして2か月が経ちました。この間に、日光修学旅行(6年生)をはじめ、長坂谷公園、学区内のショッピングセンター等へ学習に出かけたり、校内では植物の栽培・観察の学習風景が見られたり、いよいよ本校の学習活動もさらに本格的になってきました。

「ちょっと、すみません！あの…」と、思わず声をかけてしまいました…。

これは、今から数年前、仕事で横浜市内のある小学校で「研修会」の受付をしていた時の話です。その日はあいにくの大雨で、午前中だけでも100名を超える受講生を受付でお迎えする仕事をしていました。すると、1人の受講生がびしょびしょに濡れた傘からたくさんの水をしたたらせて、会場校の廊下を歩こうとしていたのです。そこで冒頭の言葉が出たのです。

声をかけられた受講生が、不思議そうな表情で私の顔を見つめます。そこで、「今日の研修会は一般の小学校をお借りして開催しています。このままでは廊下が濡れてしまうので、もう一度外に出て、傘についた雨をしっかりと落としてからお入りください。」と伝えると、受講生は「あっ、そうなんですね。」とだけ言って、慫慂(ぶぜん)とした態度で私の願いに答えてくれました…。当時、私は目と耳を疑いました。



先日、朝、雨が降った日のことです。午前中、校舎内の見回りに出かける前に、降っていた雨の状況を確認しようと思って第1校舎の昇降口を覗きました。すると、“水のカーテン”のように激しく降る雨を見る前に、1年生の傘置場の様子が目に飛び込んできました。傘についた雨水がきれいに落とされ、しかも、傘はしっかり固定用のひもで縛られ、整然とまとめられていたのです。ここは、“1年生”の傘置場です。すごい！と思い、このことを担任の先生に伝えようと1年生の教室に移動しようとする、目の前にさらに驚きの光景が広がりました。靴箱に入れられた長靴や靴が、踵(かかと)を揃えた状態でしっかり入れられていたのです。

今、この文章を読んでくださっている保護者・地域の皆さんの中には、“当たり前でしょ”と思っている方も多くいらっしゃると思います。もちろん、これらの行動は、各ご家庭でご指導して下さったり、本校の教職員の指導があったりしてできるようになったことだと思うのですが、入学して2か月足らずで、このように“当たり前”のことを当たり前にできるようになるのかと感心しました。場合によっては、先のとおり、“社会人”でも忘れてしまうことなのですから…。

わが国には、「雀百まで踊りを忘れず」や「三つ子の魂百まで」、「習慣は第二の天性なり」などの諺(ことわざ)があります。これらの共通点は、“幼い時に身に付けた習慣は年齢を重ねても忘れることはない”と言う意味にあります。今後も本校では、1年生から6年生までの児童に“当たり前”のことを当たり前に行う力を身に付けさせていけるよう努力いたします。